

技術のおたずねにこたえて

【おたずね】 タモギタケ栽培で、キノコバ工駆除のために、発生室を密閉してくん煙殺虫剤をたいたところ、キノコの形が変形しました。酸素不足によるものでしょうか。

(S村 K生)

【おこたえ】 発生室の換気が不十分で室内が酸素不足になると、キノコが変形することがありますが、おたずねの場合は、くん煙殺虫剤の有効成分であるDDVPの影響によるものと考えられます。

当科では、これをタモギタケ・ヒラタケ・ナメコについて確認しました。DDVPを有効成分とする殺虫剤を噴霧・くん煙あるいはDDVPを含ませたプレートを下げた後は、いずれも傘の上側の生長が抑制され、ひだの部分のみが生長してキノコが図のように変形します。

DDVPを有効成分とする殺虫剤で、現在市販されて広く使われているものには、1000倍程度に水でうすめて散布する「乳剤」 点火してくん煙する「バルサンロッド」「ジェットVP」 固型物を吊り下げる「パナプレート」「バポナ」等があります。

しかし、これらの殺虫剤を、キノコの芽が出てからの生長期に用いることは、DDVPによりキノコが変形して著しく商品価値を低めることとあわせて、これが生鮮食料品であるという点からみても、キノコに残留した殺虫剤の成分の人体に及ぼす影響への配慮が必要であり、好ましいことではありません。

したがって、のご屑栽培では、栽培方法に応じて防虫対策を行ない、キノコの発生期に殺虫剤を用いずにすむようにすることが大切です。箱栽培では、培養中に培地をおおっているシートの上か

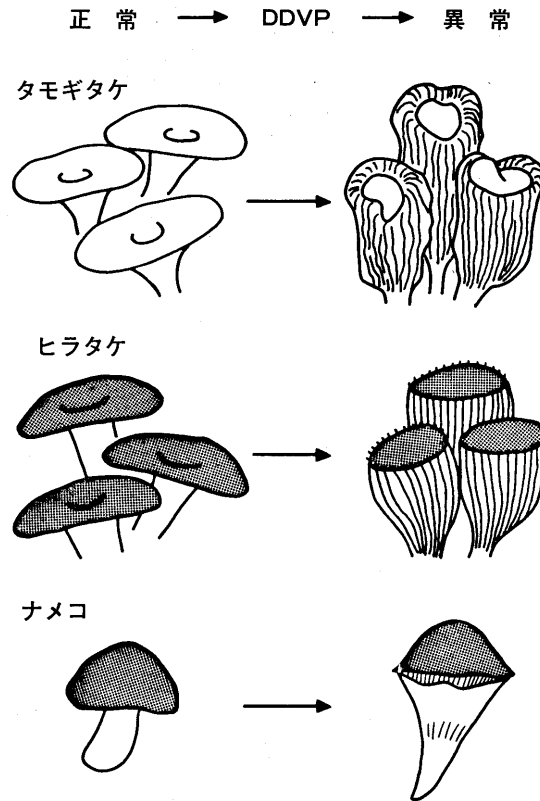


図-1 DDVPによるキノコの変形

ら防虫剤を散布し、発生操作以前から虫が培地内に入るのを防ぐことに留意しなければなりません。また瓶栽培では、虫の最も繁殖しやすい廃培地を発生室内や施設のそばに置かず、遠方へ搬出して堆肥化等の処理をすることが必要です。さらに、どちらの栽培方法でも発生室の出入口、換気窓には防虫網を設置することが良策です。

(林産試 特殊林産科)